

事業コード	H22-建-新-04		区 分	国庫補助	県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設交通部 道路課	
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2485	
路線名等	主要地方道 象潟矢島線		担当課長名	大塚 行雄	
箇所名	にかほ市象潟町武道島		担当者名	佐藤 秀治	
総合計画との関連	政策コード	17	政 策 名	新たな生活圏の創造	
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通の整備	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備推進	

## 1. 事業の概要

事業期間	H23 ~ H27 (5年)		総事業費	11.7億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長L=870m(市外地部L=230 市外地外L=640)、幅員(市街地部W=6.0(16.0)m 市外地外W=6.0(11.0)m)						
事業の立案に至る背景	<p>当路線は、にかほ市象潟町から由利本荘市矢島町に通じる主要地方道であり、鳥海ブルーラインの秋田県側入り口である。国道7号と鳥海山を結ぶ観光流動の主軸であり、また日沿道「象潟IC」が開通したときのアクセス道路となる。</p> <p>国道7号から約400mの間は道路幅員が6mしかなく、両側に住宅が密集しているため歩行者と車両とのすれ違いは危険を伴い、象潟IC完成後の交通を通過させることは非常に困難である。</p> <p>このため、隣接する道路の円滑な交通の確保と地域住民の安全性を確保するため、新規箇所として要望するものである。</p>						
事業目的	<p>車両のすれ違い困難箇所の解消</p> <p>象潟IC開通時の円滑な交通確保</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度以降
	事業費		1,162,000	191,000	370,000	214,000	387,000
	経費内訳	工事費	601,000			214,000	387,000
		用補費	526,000	156,000	370,000		
		その他	35,000	35,000			
	財源内訳	国庫補助	813,400	133,700	259,000	149,800	270,900
		県 債	331,100	54,400	105,400	60,900	110,400
その他							
一般財源		17,500	2,900	5,600	3,300	5,700	
事業内容		詳細設計、用地測量、建物調査、用地補償	詳細設計、用地測量、建物調査、用地補償	用地補償	道路土工、橋梁下部工	道路土工、舗装工、橋梁上部工	
調査経緯	H22道路予備設計						
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プランの「社会資本整備」を推進する事業						
関連プロジェクト等	日沿道「象潟仁賀保線」(平成20年代後半開通予定)						
事業を取り巻く情勢の変化	象潟ICの開通時のアクセス道路を確保する必要がある、現在の道路では増加する交通を処理しきれない。						
事業効率把握の手法	指標名	路線整備率					
	指標式	整備率(整備済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有	無	
	目標値 a	71%		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	71%					
	達成率 b/a	100%		把握の時期	平成22年 7月		

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	象潟IC開通時には、現在の交通量(1,998台/日)の3.3倍にあたる6,600台(台/日)の交通が見込まれており、早急な対応が必要とされる。	27点
緊 急 性	象潟ICの開通が20年代後半と予定されており、開通にあわせた整備が必要である。	20点
有 効 性	国道7号と象潟ICのアクセス道路として高い効果が期待される。 市道へのアクセスも容易になり、交通の分散が図られことから交通渋滞を緩和することができる。	13点
効 率 性	事業の費用便益費は1.15であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 10.6億円 ・総便益の現在価値 12.2億円 当路線の将来交通量は4,000~5,300台/日の交通量が見込まれる。	20点
熟 度	地元から交通改善の要望が出されている。	10点
判 定	ランク ( )	90点
	判定ランク であり、日沿道「象潟IC」の開通にあわせる必要もあることから、早急に実施すべきと考える。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留	90点
	評価結果から、事業箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当該箇所は、平成20年代後半に開通予定の日沿道「象潟IC」のアクセス道路となる区間であるが、現在の道路は、住宅が沿線に密集し、幅員が狭小な上に大部分が歩道未整備の状況にある。交通の安全性確保の観点から、必要性及び緊急性は高く、事業の実施は妥当と判断される。

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、日沿道象潟ICの開通後に、国道7号線とのアクセス道路として利用する予定であるが、現状は、狭小で、沿線に民家が密集しており、将来の交通量増を見込むと、危険な状況にある。日沿道の延伸を見据えながら、補償物件が少なく、既存の市道を組み合わせたルートを選択しており、妥当である。

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。
----------------

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H22-建-新-04 )

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (にかほ市象潟町武道島 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	道路の現状の問題						
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	17	17	2次改築事業については該当しない		
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	12				
	・最小半径 < 100m	1箇所	7				
	・最急勾配 > 5%						
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	18			10	2次改築は配点36点 2次改築は配点28点 2次改築は配点20点 2次改築は配点12点 2次改築は配点6点
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	14				
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	10				
	・現道の事故率 50件	2件該当	6				
・通学路指定で歩道なし	1件該当	3					
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0					
計			35	27			
緊急性	道路をとりまく環境等						
	関連事業の有無	県の主要プロジェクト等に該当	5	5			
	・県の主要プロジェクト	地域振興プロジェクトに該当	3				
	・地域振興プロジェクト	該当なし	0				
	・ほ場整備等の他事業						
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5			
	位置づけなし	0					
特有の課題の有無	あり	10	10				
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0					
計			20	20			
有効性	道路の位置づけ						
	緊急輸送路	第1次輸送路	8	6			
		第2次輸送路	7				
		第3次輸送路	6				
		指定なし	0				
	救急医療施設へのアクセス	直接アクセスする	7	7			
	間接的に補完する	5					
	アクセスへの貢献は小さい	1					
計			15	13			
効率性	事業の投資効果等						
	費用便益比(B/C)	1.0以上	10	10			
		1.0未満	0				
	計画交通量	5,000台/日以上	10	10			
		1,000台/日以上~5,000台/未満	5				
	1,000台/日未満	0					
計			20	20			
熟度	地元の状況						
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4			
		口頭要望あり	2				
		要望なし	0				
	地元の協力体制	地元の内諾	3	3			
		用地反対	0				
	地元への方針説明	あり	3	3			
	なし	0					
計			10	10			
合計			100	90			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		